



2013年10月7日

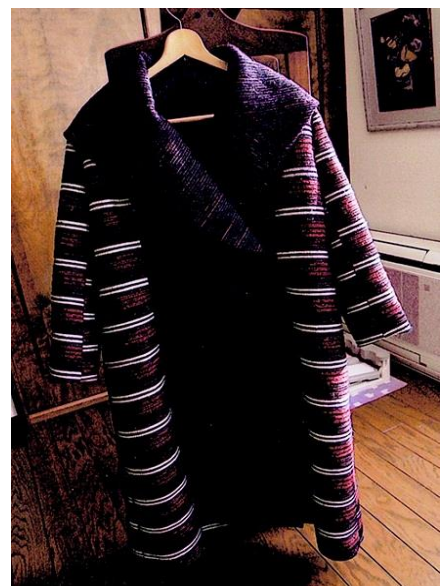
世界三大織物の一つといわれる大島紬 1300年目の挑戦 大島の技を活かした「奄美裂き織り」デビュー

伝統の技が実現する究極の着物アップサイクルで、再びお客様の元へ

大島紬の織元である有限会社はじめ商事（本社：鹿児島県奄美市、代表取締役：元雅亮）は、このたび、大島紬の着物を“裂き織り”技術で生まれ変わらせる「BACK TO AMAMI：大島紬里帰りプロジェクト」を開始しました。このプロジェクトでは、お客様から袖を通さなくなった大島紬の着物をお預かりし（産地へ里帰り）、裂いて糸にして織り直すという裂き織りの技術で新しい反物に生まれ変わらせ、ご希望の洋服や小物に加工して、再びお客様の元にお戻りするということです。1300年の伝統を持つと言われる大島紬の品質や、独特の色合いや光沢をお客様に身近にお楽しみいただくだけでなく、その着物に込められた思い出を紐解き、息吹を吹き込んでほしいという願いが込められています。

着物の市場全体が大きく縮小する中、奄美の大島紬の現在の生産量も最盛期であった1970年代に比較して約2%にまで落ち込んでいます。30を超える複雑で繊細な工程を経て生み出される大島紬は、工程ごとの職人の技と勘によって1300年間受け継がれてきました。市場の縮小により、大島紬の職人技や文化の存続が心配される中、「BACK TO AMAMI：大島紬里帰りプロジェクト」は、技術継承の危機に直面する様々な工程に仕事を生み、職人が伝統技術を発揮するとともに、後継者育成の機会を作るという大きな役割も担っています。豊かな自然と人が育み、磨き上げられてきた唯一無二の大島紬の美しさや伝統の灯を伝え続けるためにも、はじめ商事としてはこの取り組みを積極的に展開していきます。

「BACK TO AMAMI：大島紬里帰りプロジェクト」を開始した直後から、全国各地よりお問合せをいただいています。神奈川県横浜市のお客様（60代女性）からは、以前水害にあったものの捨てられずにいたもの、虫食いが見られたものなど大島紬の着物計3枚（裏、八掛けを含む）と反物1反を裂き織りにしたいとのご要望を賜り、約13メートルの裂き織り反物にしました。このお客様は、「裂き織りの反物を見て、その色合いや風合いのすばらしさに驚きました。普通の織りとは違い、限られた素材で織ったはずなのに、まるで計算しつくされたようで、職人さんの英知のかたまりに触れた気がしました。その特徴を十分生かせるようにデザイナーとじっくり相談をし、コートに仕立てました。着る機会を失っていた大島がこんなになるなんて期待以上です」と大変喜んでいただきました。



横浜市のお客様が裂き織りの反物で仕立てられたコート。絹独特の高質な着心地だけでなく、とても温かいそうです。（写真はお客様よりご提供）

はじめ商事では、裂き織りだけでなく、大島紬の糸と皮革を組み合わせたこれまでにない生地の開発に励むなど、1300年の歴史が途絶えることなく、さらに新たな伝統を築くためにまい進してまいります。



プレスリリース

【有限会社はじめ商事について】

奄美大島の有屋集落で代々続く大島紬の織元、1982年に6代目が有限会社を設立した。現社長は7代目。現在は、本場奄美大島の製造卸を行う傍ら、大島紬の製造技法を活かした新たなものづくりも積極的に行っている。また、今回スタートした里帰りプロジェクトや異業種とのコラボレーション等、大島紬の伝統を次世代につなげるための様々な活動を行っている。<http://hajimeshoji.com/>

【大島紬について】

奄美大島特有の自然風土を活かして約1300年前に生まれたと伝えられている。ペルシャ絨毯やゴブラン織りと並び、世界三大織物の一つに数えられる。当初は、奄美自生のテーチ木（シャリンバイ）等の植物を染料としていたが、やがて、独自の土壌成分を活かした泥染めの技法が取り入れられる。近代、大島紬の代名詞となった深みのある渋い色合いは、絹糸をテーチ木染めと泥染めを何度も繰り返すことで生まれる。また、複雑な手作業を何工程も経て織り出される繊細な縞模様は、まさに世界を代表する芸術的な技法と称される。1975年に、経済産業大臣が指定する「伝統的工芸品」にも選定された。

【BACK TO AMAMI：大島紬里帰りプロジェクトについて】

裂き織りとは、古い生地を細く裂き、それをヨコ糸にして、新しい生地を織る手法。従来は、貴重なものを大切に使い続けるために生まれた古人の知恵で、木綿の着物がこの手法でリサイクルされてきた。はじめ商事の奄美裂き織りは、上質な大島紬を使うことで、独自の光沢や色合いを持った上質な生地を新たに織る。タテ糸の色や織りの間隔によっても、出来上がりの風合いや手触りが大きく違ってくる。

「BACK TO AMAMI：大島紬里帰りプロジェクト」では、お客様の御要望に応じて、織りあがった裂き織り生地を洋服はもちろんのこと、バックや帽子などの小物に加工し、お届けするサービス。活かしきれなかった思い出の大島紬に伝統技術を使って新たな息吹を吹き込む、まさに究極のアップサイクル（古いものをさらに付加価値のあるものに生まれ変わらせるリサイクルの進化形）を実現する。



1) お客様からお預かりした着物を丁寧に洗浄し、細く裂いていく。



2) 裂いた糸をヨコ糸にし、織りの職人が新たな生地に織り上げる。タテ糸の色によっても出来上がりの色合いが変わる。



3) 独特の風合いを持つ大島紬の裂き織りが完成。長さはお預かりした着物の量による。



4) 究極のアップサイクル。古い大島紬の着物から新しい品物が生まれ出される。